

# 秋田



今、秋田では温泉がブームである。

そのひきがねは昭和八十二年から始まったふるさと創生事業。使途に制限のない交付金だから、町営酒場「フォーラムハウス」を建設した仙南村、秋田蘭画（小田野直武など）を購入した秋田市のようなケースもある。しかし、なんと目立ったのが温泉掘削だ。これまで十八か所ほどで掘削に成功、他の事業で掘ったものも合わせ、福祉に観光開発の核にと今や温泉はまちおこしにならなくてはならないものになった。

もともと秋田県は温泉が豊富だ。温泉地数は二百六、総源泉数は四百二十二（平成四年三月調査）。八幡平温泉郷、田沢湖高原温泉郷、秋の宮温泉郷の三つの国民保養温泉地もある。この数の多さ、鳥海、那須の両火山帯がとおり、活火山が多いという自然条件もさりながら、一年の農作業の疲れを湯治で癒す農家など、地元の人々が温泉地を地道に育ててきたことが大きい。有望な湯脈に囲まれてはいても、温

泉探査、ボーリングには多額の資金がかかる。だから通常の財政事情ではおしいそれは手をだせなかった。これまでに石油や黒鉱の探査ボーリングで湧出した温泉を利用して保養所をつくった例もある。が、やはりふるさと創生事業は市町村が温泉開発に乗り出すよききっかけになった。

見事温泉が湧出となり、さっそくつくったのは保養所。八森町の湯っこランドや太田町の中里温泉ふるさと館などたくさんある。これらは将来構想はそれとして、まずは町民向け入浴サービスを主眼においたものである。安く（三百円程度）気軽にいける温泉として平日でも入浴客がいっぱいの人だ。

これに加えて温水プールやキャンプ場、散策路などを設け、レクリエーション基地として整備する構想を具体化させているところもある。千畑町では松の名所である仏沢公園に、中仙町では県憩いの森指定の八乙女公園に整備を



雄物川を眺めながら温泉を楽しむ（雄物川町三吉山荘）



ザ・フーンは若者に人気のウォーターレジャー施設



秋田県で一番ビッグな施設ザ・フーン

# 温泉

今どきの「湯」の楽しみ方



物産ブームといわれたのもまだ耳新しい。う、ヤングが関心もつのは温泉だ